

ひろしま五行歌会同好会

(平成三十年十月六日)

「自由詠」

- ① たわいもない
平凡な
日常は
実は
幸せな日々だった
- ② 「おはよう」
と云われ
「おはよう」
と云った
幸せ朝の一言
- ③ 全てが平均すれすれ
だったのに
年令だけが
平均を超えてしまい
気恥ずかしい
- ④ できない
歌に
四苦八苦
カラスのひと声
追い打ちをかける
- ⑤ 人間ドッグ異常なし
洗たくもの乾いた
5行歌は 送った
などなど
ほっとする1日
- ⑥ どんな波が
来ても
いいように
終活の夢を
大きめにする
- ⑦ 柴犬のかな
小さな毛玉が草むらに
あれも
梳いてやると
目を細めていたっけ
- ⑧ 大阪は
大坂の笑顔に
乗っとられた
折角の笑顔
今からすぐに私も
- ⑨ 右手、右足いいですよ
笑顔はじける
体操教室の朝
生きているってすばらしい
これでいい 今のまがいい
- ⑩ おーい
北斗七星
天ノ川まで運んでよ
彦星さまとランデブー
ブラックアウトのお蔭です

⑪ 私の宝物

- 一・娘
- 二・孫娘
- 三・四がなくて
- 五・長男

⑫ あと五回 淋しいな―

- 月1の楽しみでした
- 14年間ありがとう
- 事務局の皆さん
- 大変お世話になりました

⑬ 人生という木から

- 山あり谷ありに
- 想いを馳せる今
- 心の底から
- 至福感に包まれる

⑭ 律儀だねえ

- 炎暑だろうと
- 雨不足だろうと
- 彼岸の頃には
- シャキッと曼殊沙華

⑮ 左が西だと決めている

- 方向音痴
- ワタクシが
- 世界の
- 中心である

⑯ あなたの優しい支えで

- 五行歌が
- 生き甲斐だった
- ありがとうの花束を
- あなたに

⑰ 懸命の介護で

- 意識が戻った 母
- また
- 子供達の家族を
- 心配している

⑱ 威勢よく飛び立った

- オニヤンマが
- 虫取り網にかかった
- ウスバカゲロウは
- そくっと身を消して

⑲ 赤の振袖を選んで

- これ私のと
- 抱きしめる孫の仕草
- 呉服屋さんも
- 初めてと喜んでくださる